

令和7年度 第2回 和泉市公共交通利用活性化プロジェクト委員会 議事要旨

【会議概要】

- ・日 時：令和7年12月2日(火)14:00～15:00
- ・場 所：和泉市コミュニティセンター1階大集会室
- ・欠席者：葉原委員、馬渕委員、坂上委員、藤原委員、小川委員

【次第】

1. あいさつ
2. 委員紹介
3. 議案
 - 1) 中山間地域における公共交通について
 - 2) 阪和線西エリア運行計画（案）について
 - 3) 生活交通改善事業計画案について
(バリアフリー化設備等整備事業)

【議事概要】

1. あいさつ

森吉委員長：本日はお忙しい中、ご出席いただき、また本市の公共交通行政をはじめ、市政各般にご協力いただき感謝申し上げる。4月に開幕した大阪・関西万博が10月13日に大盛況のうちに無事終え、この万博においては、大量のドライバーを動員していたバス事業者においては、大変安堵されているかと思う。また、タクシー事業者においては、日本版ライドシェアや条件付きで営業区域を撤廃する制度（通称なにわモデル）が実施され、タクシー需要の増加に繋がったのではないかと思う。そして、万博での輸送手段の主力である鉄道事業者においては、8月に一部トラブルが発生したが、万博へのアクセスについては、自家用車ではなく、公共交通を利用するすることが前提であり、公共交通の利用促進への追い風にもなったのではないかと考える。本日は、中山間地域における公共交通をはじめ、阪和線西エリアにおけるデマンド運行計画に関する議案となっており、委員皆様におかれでは、地域公共交通の活性化とともに、地域の移動手段の確保策に向けて、多様な観点からご意見を頂き、ご審議いただきたい。

2. 委員紹介

(省略)

3. 議案

1) 中山間地域における公共交通について

(事務局より資料 1 の説明)

伊勢副委員長：事務局からの説明について質問や意見等はあるか。

伊勢副委員長：今回再編したことで、市民等から何か意見はあったか。

事務局：今回 10 月から一部廃止の天野山線については、市の路線維持バスから路線バスに乗り換える必要があり、例えば、路線バスが遅れた場合、本市の路線維持バスに乗れなくなり、次の便が来るまで待たないといけなくなると利用者から意見をいただいている。運行事業者が異なるため、課題であると認識はしている。

伊勢副委員長：今の課題については、事業者等と改善に向けて検討は行うのか。

事務局：天野山ルートの乗り継ぎについては、運行事業者と協議を行い河内長野駅方面からの路線バスが遅延した場合、路線維持バスの発車時刻を可能な範囲で調整し、路線バスが到着したことを確認してから運行する対応をとっている。

伊勢副委員長：天野山発を見ると、1 日当たり 2、3 人しか乗車していないのではないか。特定された僅かな人の利用か。また、全体的に利用が多いとは思えないが、今回、議案にあげた理由は、利用状況の確認と現状の運用に対し、委員の意見を求める意味合いか。

事務局：第 1 回の本委員会で、天野山線の代替交通について運行事業者等との協議が調っていなかった部分もあり、10 月から運行しているので報告も兼ねている。

伊勢副委員長：このまま進めて適宜、情報提供をしてほしい。また、全体のまとめ方ですが、路線をこのまま維持していくかどうかをゆくゆくは検討していかないといけないと思う。和泉市の体力がどこまで持つか分からない。これはコメントですが、チョイソコいすみで、月あたりより便あたりの利用者数がどれだけ増えたか、言い換えば、移動コストが上がっているように思う。今回の再編によって利用者の利便性がどうなったか、自治体のバスの運営状況としてどうなったかを、多角的にチェックできるデータを見せてもらえると、今後の報告の中で意見が出やすいのではないかと思う。

他に意見がないので、議案 1 の進捗状況については計画に沿って事業を進めていくで、ご異議ないか。

(一同異議なし)

伊勢副委員長：この件について、ご異議がないということで承認いただいたので、事務局は計画に沿って進めていただきたい。

2) 阪和線西エリア運行計画（案）について

(事務局より資料 2 の説明)

伊勢副委員長：事務局からの説明について質問や意見等はあるか。

伊勢副委員長：ワンボックスで乗車人数が6～9人になっているがどういうことか。

事務局：今回使用する車両について、令和8年4月からはハイエース9人乗りだが、令和8年2～3月については車両の手配上、ワンボックスで最大6人の乗車定員となるためこのような表記としている。

伊勢副委員長：有償運行からは、乗車定員が増えるということか。

事務局：はい。

伊勢副委員長：確認だが、月曜日から土曜日までが運行日で、予約受付が月曜日から金曜日の8時半から16時。予約キャンセルが乗車予定時間前までだが、予約キャンセルは24時間対応か。

事務局：はい。インターネットでは、24時間の対応が可能だが、コールセンターでは、開設時間帯での対応となるので、手段によって対応が異なる。

伊勢副委員長：例えば、金曜日16時に電話で土曜日8時半に乗車予約すると、金曜日の夜中にキャンセルするとなると直前までと案内しているのに、電話ではキャンセル出来ないということか。

事務局：はい。インターネットでは対応可能だが、コールセンターでは対応できない。

伊勢副委員長：直前にキャンセルを言われると、運行事業者や運行時の人達は困るのではないか。
30分前ぐらいにキャンセルしてもらえば他の乗車に向かえるのではないか。
経営上、このやり方で運行事業者に不利益はないのか。相談のうえで決めている
と思うので問題ないかと思うがどうなのか。

事務局：当初の運用では、乗車予約のキャンセルをする場合、予約時間の30分前までとしていたが、迎えに行った際に利用者がいない場合は、キャンセルかどうか判別できない、また、無駄な運行につながるとの課題があり、運行事業者から乗車予約のキャンセルについて、予約時間まで可能とするよう要望があり、協議した結果の運用である。

伊勢副委員長：運行事業者が問題ないのであれば構わない。この辺りは、運行事業者の経営も厳しいと思うので、乗車予約前30分を切ってからのキャンセルはお金を持って欲しいと意見が出ている所もある。かなりありがたい対応をしてくれている。

次に、評価指標の見直し基準について、利用者数だけ着目しているところがあり、この2分の1を下回った場合は事業廃止を含めて見直すとの説明だったかと思う。その下の5つの指標についてはどう取り扱うのか。

事務局：見直し基準について、利用者数での縛りになっているが、他の指標については、今回の評価指標として項目にあげており、収支率や平均の利用者数等が達成するかどうか、項目によって様々なパターンが出てくるかと思うので、最終、令和10年度の効果検証にあたっては、事務局としてもまだ整理できていない面もあるので、項目の設定も含めて引き続き協議していきたい。

伊勢副委員長：これはあくまでたたき台で今後の議論の中で指標が増加したり、その数値が減つ

たり、判断基準が変わったりとの認識でよいか。他の委員において、今の段階でこの項目を入れていた方が良いとかあれば、発言願いたい。

各自治体の委員会に参画しているが、なかなかバス事業者も厳しく、バス路線がなくなっていく中で住民主体の生活交通の確保みたいなことを導入している所が多い。生活交通の確保を導入した場合、社会実験として1、2か月ほど運行し、利用客が少ないと本格運行には移行しない。自治体も同様に実験してずっとサービスすることは財政上厳しく、ここまでなら本格運行するけれど、これを下回つたら運行が難しいと判断せざる負えなくなるというマニュアルを作成しながら行っている。今回、和泉市の体力としては問題ないのか。また、南部地域も運行しており本当に大丈夫かと少し気になっている。

事務局：確かに他市では、マニュアルを作成し実証を行い、行政もどこまで出来るかが課題である中で、本来、住民主体が基本ベースかと思う。今回、阪和線西については、もともと公共交通がない場所であり、ここで実証実験を行い、どれだけ利用があるか効果検証を踏まえて、事業を引き続き行うか、本格運行するかを見極めていきたい。南部地域については、当初、オンデマンド導入時は公共交通である路線バスがまだ廃止になっていたので、評価基準を設けているが、路線バス廃止区域となり、デマンドバスがなくなると交通空白地域となるので、市としても移動手段を確保していく地域だと考えている。

伊勢副委員長：個人的には、この2つの地域は生活交通マニュアルを今後作成していく中の実験場として捉えた方が良いと思う。利用客が減少すると公共交通として成立しなくなり、公共交通のセクターが受け持つようなエリアではなくなる可能性もある中で、公共交通で何とかしていこうという話ではあるが、どちらかというと福祉政策としてやっていかないといけない部分になるかもしれない。どこまでが公共交通が受け持つ範囲で、どこからが福祉かという切り分けを考えていかなければいけない。今のところ2つの地域だが、今の議論だと、もし他で交通空白地が出てきた場合、その地域の人達の生活の支援にチョイソコだと高額な費用が掛かる。各自治体の実験結果を聞くと、1乗車で実態2万円ほど費用がかかっているところもある。和泉市の財政がそんなに余裕があるとは思えないでの、収支率だけではなくどこまでなら補填できるか金額を示すのもよい。いきなりこの地域だけ決めるのは難しいかもしれないが、そういった実証エリアとした方が個人的にはいいと思うが、そこは市の判断になるとは思う。今後増えてくることを想定して検討していくべきだが、ネガティブな意見を言うと乗合率2人はなかなか難しく、収支率14%もかなり挑戦的な数字であるので気をつけてほしい。

田中委員：伊勢副委員長と同じ内容ではあるが、前回にも市の負担、公共交通にかかる金額がどれだけなのか明らかにされた方がいいのではと発言した。今回のチョイソコの拡大についても、実際に費用負担を皆さんも一度認識が必要ではないか。1

乗車2万円かかっている地域もあるならば、人数等を把握してタクシー券を配布する方が市にとっても良いのではと、様々な検討材料にもなるので一度検討してほしい。南部地域では、先ほどの資料の説明で、朝の便には乗車しているが、帰りの便で乗車していないような話があったかと思うが、同様の事案が他県のチョイソコを運用している地域であり、家族の送迎負担が増えているので、チョイソコの延長や乗り合いタクシーの検討をするなど、いろんな手法があるので、誰がどれだけ困っているのか属性等をこの実験等で明らかにしてみてはと思う。

伊勢副委員長：先程、車内にアンケートを用意することで評価指標の利用者満足度を把握するということだが、今の意見でニーズを把握するための調査を別途、有償を終えた後に実施するのか。

事務局：このチョイソコは㈱アイシンのシステムを利用しておらず、利用者数等いろんな統計を把握しているので、別途調査は行わない。アイシンのシステムからの利用者数、利用状況を把握する。

伊勢副委員長：ODのデータや時刻、どこから乗車して降車することはシステムで見られるはずなので、そのままデータを貰ってやってもらえたらしいと思う。

井本委員：3ページ、バス停の乗降場所で※印で利用状況等の増減する場合がありますと記載しているが、これも車内アンケート等で「ここに停まって欲しい」などの意見を聞いて反映していくのか。どちらかと言えば、乗車場所よりも降車場所が選ばれているような気がするが、満遍なく散らばっているから近くの停留所を使用してくださいってことなのか。他の市町村では、後々使っていない乗降場所は減らして希望のある場所に持っていくこうとするときに、一人しか利用していないので止める市町村もあれば、一人でも利用していると残す市町村もある。その辺の公平性というか元々どうゆう形で増減するのかをある程度想定している方がいいのではないか。

事務局：車内アンケートにより要望などを吸い上げていく考えではあるが、乗降場所の増減の条件設定までは整理できていないので、その点も含めて実証運行していく考えである。

田中委員：2か月間無償運行でバス停と記載しているが、基本的には乗降場所になるかと思うので、路線バスが使用しているバス停を使用される所はあるのか。もしもあるならば、別途手続等が必要になるので気を付けていただきたい。

事務局：今回のエリアについては、路線バスのバス停を共有することはない。

伊勢副委員長：2月から2か月間は無償運行で、令和8・9年の2年間で有償運行を行い、評価指標の目標値は令和9年度なので、令和8年度は特に評価は対象から外すのか。それまでは特にデータを示さず、この委員会で適宜その都度資料に関するものは提出して経過観察するのか。

事務局：本委員会ではその都度、利用状況等は示していく。

伊勢副委員長：評価指標を令和9年度だけにしている理由はあるのか。

事務局：今回2か年なので、最終年度を表記している。

伊勢副委員長：令和8年度の評価指標は。

事務局：令和9年度を目標値として設定し、令和8年度末の段階でどれだけ右肩上がりで上がっているのか、その指標として2分の1、令和8年度だとこの指標の利用者数で見ると9,340人の2分の1に到達しているかどうか、一定、そこの指標は確認していきたいと考えている。令和8年度末の段階で2分の1に満たない場合は、利用促進に向けた見直しを本委員会の中で様々な提案をしてご意見等をいただいたうえで見直していく、事業を進めていけたらと考えている。最終、令和9年度にこの数値に到達することを目指して事業を展開していきたいと考えている。

伊勢副委員長：他にご意見がないので、議案2の資料の内容について計画に沿って事業を進めていくで、ご異議ないか。

(一同異議なし)

伊勢副委員長：この件について、ご異議がないということで承認いただいたので、事務局は計画に沿って進めていただきたい。

3) 生活交通改善事業計画案について

(事務局より資料3の説明)

伊勢副委員長：事務局からの説明について質問や意見等はあるか。

伊勢副委員長：他にご意見がないので、議案2の資料の内容についてはご承認いただけたと計画に沿って事業を進めていただきたい。

4. 閉会

事務局：本日は長時間にわたり熱心に議論いただき、感謝申し上げる。これにて本日の和泉市公共交通活性化プロジェクト委員会を閉会する。

以上

【会議の様子】

